花火ダイアリー4

ぎふ長良川花火大会実行委員会事務局
森島　悠

花火満開まで32日

第２回「ぎふ長良川花火大会」開催まで、残すところ１か月となりました。

今、私たち花火大会事務局８名のメンバーは、当日皆さんにお楽しみいただけるよう、一丸となって準備に励んでいるところです。

そんな中、いよいよ７月 10 日から「応援席チケット」の一般販売がスタートしました。

ぎふ長良川花火大会では、昨年の第１回大会より応援席（有料観覧席）を設けました。これまで、多くの方々があたりまえのように「花火は『無料』でみるもの」という認識であったかと思います。しかし、花火大会観覧席の有料化は、全国的に急激に進んでいます。

全国各地で開催される花火大会は、その地域の「夏の風物詩」として、地元企業からの協賛金（広告料）や自治体からの後援などを収入の柱に開催されているのが一般的でした。

しかし、その在り方は、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく変わりました。

一方、人件費や火薬代などは、物価高騰のあおりを受け増加の一途を辿っています。さらには、明石市や韓国梨泰院での雑踏事故を受けて、来場者の安全確保のための警備強化にも莫大な費用がかかっています。

このように、企業の協賛金や後援を収入の主軸としていた花火大会等イベントの多くは、収支のバランスが成り立たなくなってしまったのです。

これは全国的な問題であり、私が視察に伺った長野市、諏訪市ではもちろん、電話等で調査した他の花火大会でも同様の事態に陥っていました。

昨年共同通信社が行った調査によると、2023年に全国で少なくとも 25 の花火大会が資金難のため中止となっています。また当実行委員会が独自に実施した調査では、全国 612 の花火大会のうち約３割にあたる 179 の花火大会が有料席を設けていました。

今や花火大会の有料観覧席収入は協賛金と並んで花火大会運営を支える大きな柱となっています。

実行委員会では、応援席（有料観覧席）を購入していただいた方々には「花火＋α」の観覧体験をお届けできるよう様々な席種企画を行ってきました。第１回の初の有料観覧席では自由席・指定席・階段席・三脚持込可能席の４種類を設け、より安全・安心に花火大会を楽しんでいただけるよう努めました。今回の第２回では、新たにペアシート、ファミリー席、リクライニングシートの３つの席種を追加し、合計７種類とパワーアップしています。

さて、今年の長良川の夜空には、どんな大輪の花が咲くのでしょうか。

各々の席から見上げる打上花火が、より多くの皆様のかけがえのない思い出の１ページとなるよう、残りの時間も全力で取り組んでまいります。どうぞご期待ください！